外研

日语分级读库

にほんご よむよむ文庫

Vol.2 3 6

かげのこいびと

日本NPO法人 日本语多读研究会 主编
山本 泰子（日） 著
中岛 梨绘（日） 插图

外研
日语分级读库

にほんご よむよむ文庫

Vol.2 3 6

かげのこいびと

日本NPO法人 日本语多读研究会　主编
山本 泰子（日）　著
中岛 梨绘（日）　插图

外语教学与研究出版社
北京

京权图字：01－2008－1938

© Originally Published by ASK Publishing Co., Ltd., Tokyo Japan

图书在版编目(CIP)数据

外研日语分级读库. Vol.2. 3 ⑥/ 日本NPO法人日本语多读研究会主编 .— 北京：外语教学与研究出版社，2009.1
ISBN 978－7－5600－8121－2

Ⅰ. 外… Ⅱ. 日… Ⅲ. 日语—语言读物 Ⅳ. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字（2009）第 006904 号

出 版 人：于春迟
责任编辑：刘　军
装帧设计：王　军
出版发行：外语教学与研究出版社
社　　址：北京市西三环北路 19 号（100089）
网　　址：http://www.fltrp.com
印　　刷：北京国邦印刷有限责任公司
开　　本：880×1230　1/32
印　　张：1
版　　次：2009 年 2 月第 1 版　2009 年 2 月第 1 次印刷
书　　号：ISBN 978－7－5600－8121－2
定　　价：34.90 元（全五册）

*　　*　　*

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换
制售盗版必究 举报查实奖励
版权保护办公室举报电话：(010)88817519
物料号：181210001

日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は、
日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。
楽しみながらたくさん読んでください。
やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。
読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいでしょう。
目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

1 やさしいレベルから読む。
2 辞書を引かないで読む。
3 わからないところは飛ばして読む。
4 進まなくなったら、他の本を読む。

隆之が出ていった。

今までどんなけんかをしても、出ていったことはなかったのに。しかも、トイレットペーパーのことでけんかしたなんて……。

バタン！

ドアの閉まる音がすると、胸が苦しくなった。目から涙がつーっと落ちた。

「泣かないでください」

隆之の声だ。

――え？――

急いで涙をふいて、顔を上げた。ソファに黒い影が座っている。

「隆之さんは、わたくしをすっかり忘れて、お出かけになったようですね」

――話しているのは、この…人？――

黒い影は立ち上がって、うううーんと体を伸ばした。

ちょうど隆之と同じ背の高さだ。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

「隆之さん、寝ているんだと思っていましたので、わたくしも一緒に眠ってしまいました……」

「それじゃあ、あなたは……　隆之の…影…さん…？」

「はい。初めまして、由子さん」

影は丁寧に頭を下げた。

「いや、『初めまして』は変ですね」

と言って、影が笑った。隆之と同じ笑い声が部屋いっぱいに広がった。とても気持ちよさそうに笑うので、私も一緒に笑ってしまった。優しい気持ちになった。さっきの涙は、もう止まっていた。

「影さん、クッキーはいかがですか？
ちょうどお茶の時間にしようと思っていたんです」
私は、焼いたばかりのクッキーを白い皿に並べて、影の前に置いた。
「どうぞ」
「ありがとうございます」
「日曜日は、一週間分のクッキーやケーキをたくさん焼くんです。さあ、どうぞ」
「それが……。残念ですが、影は物を食べることができないのでございます」
「そう…なの……」

甘いものが大好きな隆之のために作ったクッキー。影さんに食べてもらって、「おいしい」って言ってもらいたかったのに……。

「ごめんなさい、由子さん。お気持ちだけいただきます」

「何か、影さんが喜ぶことをしてあげたいんだけど……」

「では」

と、影は言った。

「このお皿をもっとよく見せていただきたいんですが……」

「え？」

「わたくしは、このお皿をゆっくり見たいのです」

私は、クッキーを他の皿に入れると、白くて丸い皿を影の前に置いた。

「はあー。なんて美しい白でしょう」

「私が作ったんですよ。週一回、先生に習っているんです」

自分でも大好きな皿だった。影に「美しい」と言われて、私はとてもうれしかった。

隆之に私が作った皿や茶碗を見せても、ちょっと見て、「へえー」とか「ふーん」と言うだけ。置いてあっても、「見て」と言わないと気がつかない。

影は皿に触ろうとして、手を伸ばした。でも、何度やっても、すうーっと手が皿の向こうに通ってしまう。

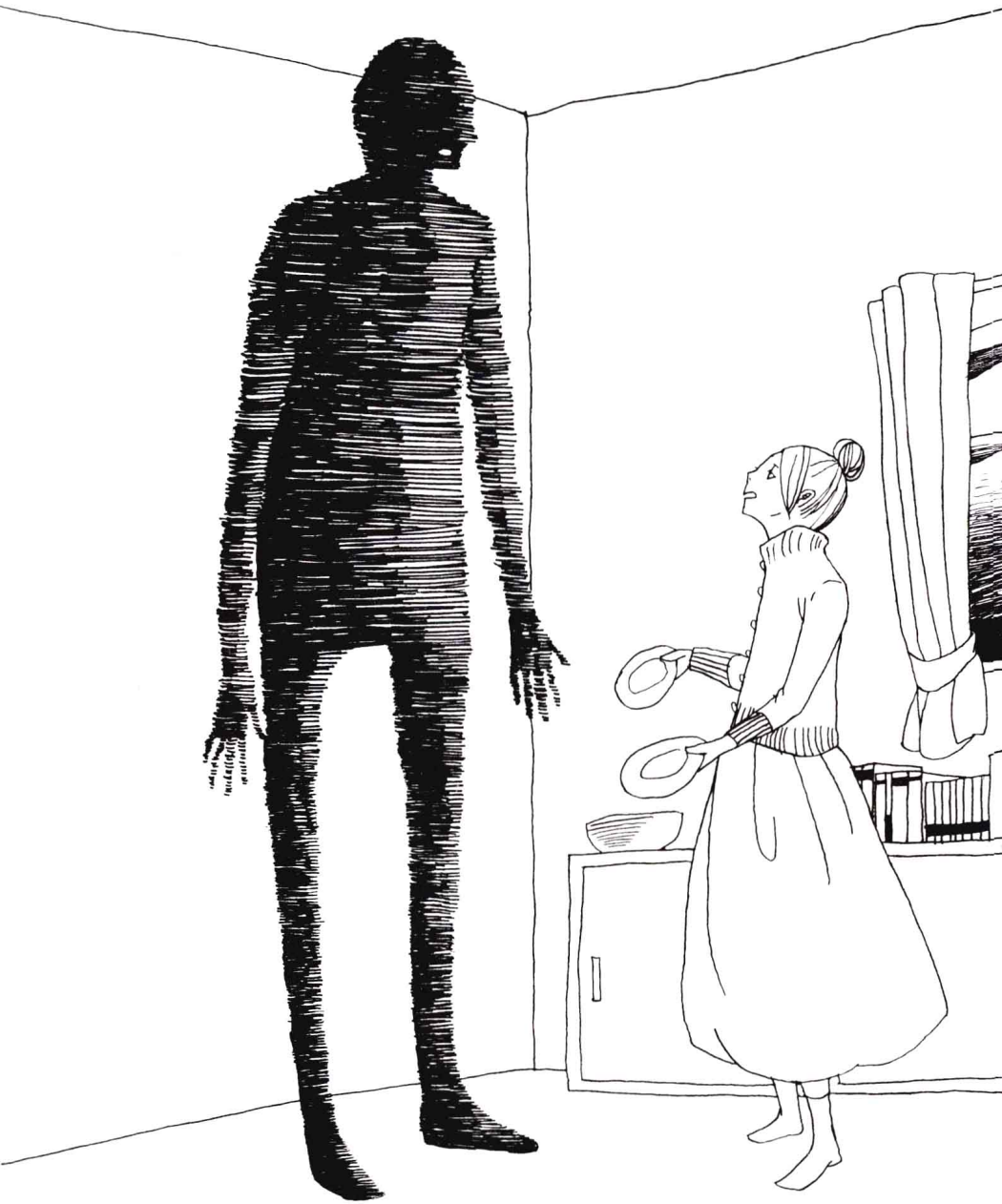
「影は、物に触ることができないのです」
影は悲しそうに言った。
私は皿を持ち上げて、右や左、そして、裏も影に見せた。影は、「わあ」とか「ほう」とか、何度も言って、皿を長い間見ていた。
「もしよろしければ」
と、影が言った。
「はい？」
「由子さんの作った物を、もっと見せていただきたいのですが……」
隆之も出会ったころは、こんな丁寧な言い方をよくしていた。でも、最近は、全然丁寧じゃない。影さんとは大違い。私は、隣の部屋から、今までに作った皿や茶碗や花瓶などを次々に持ってきて、部屋いっぱいに並べた。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

影はお店に買い物に来たお客さんのように、ゆっくり歩きながら、一つ一つに顔を近づけたり、少し遠くから見たりした。

「本当にきれいですねえ。わたくしたち影は自分に色がないので、色を見ると、とてもうれしくなるのです。このような複雑な色を見ると、生きていてよかった、と思うのでございます……」

影は急に話すのをやめて窓の外を見た。さっきまで、四階のこの部屋からは、きれいな青い冬空が見えていたのに、いつの間にか暗くなり始めていた。影は前よりずっと背が高くなっている。



「ところで、由子さん、どうして隆之さんは、出ていってしまったのですか？」
急にこう聞かれて、私は、すぐには答えられなかった。つまらないことでけんかしたので、言うのがちょっと恥ずかしい。
「それが……、トイレットペーパーのことでけんかしたの」
「トイレットペーパーって、あのトイレで使う紙？」
私は赤くなりながら、「ええ」と言った。
「隆之はトイレットペーパーを使って、全部なくなっても、新しいのを入れてくれないの。いつも、そのまま。後に使う人のことなんて、全然考えていないのよ。今まで何度も言ったのに、全然直してくれない。このごろは、私が言い出すと、『うるさいな』って言って、寝てしまうの」
「それでは、さっき隆之さんがソファで寝ていらっしゃったのは、そういうことだったんですね」
「私も怒って、隆之の顔にクッションを投げたの」

「ワアォ！」
影は、大きな声を出して、両手を上げた。長い腕が大きく動くと、部屋が揺れているようだ。
「か、影さん！　どうしたの？」
「あ、大変失礼いたしました。恋人っていいなあと思ったものですから」
「全然よくないわ！」

――影だから、私たちのこと、まじめに考えてくれないんだ……――

私は、また隆之とけんかした後の悲しい気持ちになった。涙が落ちそうになる。

そんな私の気持ちがわからないのだろうか。影は小さい声で歌を歌いながら、皿や茶碗を楽しそうに見ている。

「影さん、あなたは、隆之がどこかへ行ってしまったのに、寂しくないの？」

影は歌をやめると、少し笑いながら私を見た。

「わたくしは寂しくありませんよ。生まれてから一度ぐらい、一人になって好きなことをしてみたいと思っていましたからね。今日はしたかったことができて、とてもうれしいのですよ」

そう言うと、影はダンスを踊り始めた。

「由子さんも踊りましょう」

「私、ダンスなんて踊れないわ……」

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com